



赤絵蓋碗 径10・高さ8cm



灰陶皿 径17・高さ5.5cm



白瓷碗 径10.5・高さ8.5cm



灰陶花入 径19.5・高さ8.5cm

# EXHIBITION OF RYOHEI & YUKI YAMAMOTO



染付立壺 径30・高さ36cm



染付茶杯 径5.3・高さ4.5cm



料金後納  
ゆうメール

色は匂へど 散りぬるを  
我が世誰ぞ 常ならん  
有為の奥山 今日超えて  
浅き夢見じ 酔ひもせず

灰陶壺染壺 径8・高さ9.5cm / 赤絵茶杯 径4.5・高さ3.5cm



いろはにほへど ちりぬるを  
わかよたれそ つねならむ  
うゑのおくやま けふこえて  
あさきゆめみし ゑひもせす

赤絵皿 径20・高さ4cm

「いろはにほへど ちりぬるを」から始まる「いろは歌」。47文字を一つも重複させることなく七五調の韻文で作られた奇跡のようなパングラム。これに漢字を当てた「色は匂へど 散りぬるを」は仏教的な無常を述べたものとも言われます。山本亮平さんとゆきさんのお仕事は、江戸初期に有田で焼かれた器に根差しており、陶石と土窯による焼成によって当時の風合いを再現してきました。古典の方法に添っていけば、自ずとそれ近づけることができる。これが近年山本さんたちが実証してきた往年の有田焼の風合いでした。さてそのうえで何を作るのか。この命題に対して山本さんたちは次の段階に移りつつあります。古典の質感の再現性をもって、単なる写しには落とし込まない。限られた因子を基にして、どのような現代の歌を詠むのか。これがここ数年のお二人の仕事から感じ取れる印象です。制作に関わる条件を絞り込みながらも、わずかな振幅から生まれる詩情豊かな器の世界。これが山本さんと「いろは歌」に共通する思いです。さらに

「いろは」のひらがなのごとく、中国から伝わった漢字を簡略化して草書体にした「かな文字」の美しさも山本さんの器と重なります。連続と曲線を繋いでいくひらがなの美しさ。柳のようにしなやかでありながら、芯のある文字の流れ。400年前の有田の焼き物が中国や韓国の影響で始まりながら、やがて時を経て日本独自の食器文化を培っていった辺境の美。山本さんたちの古典的な有田焼の手法に準じて、どう草書的な「ひらがな」に変換していくかも山本さんたちの古典再生の意識に通じています。「いろはにほへど=色は匂へど」の「色」は花を表しており、「花は咲いても、やがて散ってしまう」ことを意味しています。この無常感も山本さんたちの器に感じる淡く消え入らんとするゆえの美であり、ゆえに愛おしい感情を呼び起こすのです。2014年以來10年に渡り見続けてきた山本さんの展示会も今回で5回目を迎えます。「色は匂へど」と同じく桜の開花の季節に重なりそうです。どうぞ山本さんたちの器を感じ取って頂ければ幸いです。店主

山本亮平・ゆき展 色は匂へど  
2024年3月23日(土)～3月30日(土)  
作家在廊日 3月23日  
※初日3/23 11時～13時は予約制、3月28日は休み  
11:00～18:00 最終日は17時迄

ギャラリー うつわノート  
埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
TEL 049-298-8715  
MAIL utsuwanote@gmail.com



平倉ゆき  
1978年 長崎県生まれ  
2000年 佐賀有田窯業大学短期大学  
2001年 絵付けとして三年間活動  
2024年 佐賀有田町にて制作

山本亮平・ゆき展 色は匂へど  
2024年3月23日(土)～3月30日(土)  
作家在廊日3月23日  
※初日3/23 11時～13時は予約制、3月28日は休み

GALLERY  
うつわノート